

題材名 出前授業「筆はおどる - 水彩絵具を上手に使おう」

ねらい

映像資料（クロード＝モネ・中村彝の作品など）の鑑賞と鑑賞をより深めるための体験的  
活動をすることによって、絵画作品に親しみ、鑑賞の能力を高めることができる内容とする。

主な児童の活動 T（担任の先生）	GT（方波見）オペレーター：佐藤・田所	時間
<p>1 水彩絵具で彩色をする際、楽しいと感じる場面などについて発表し、関心・意欲を高める。 既習の画材（クレヨン、色鉛筆など）と比較する等、水彩画の魅力について考えさせたい。 学級の実態に合わせて</p> <p>2 本時のねらいを知る。</p>	<p>担任の先生と共に、児童の発表に対して、共感的な言葉かけや解説などをする。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>筆の使い方に着目して、じっくり絵を見てみよう</p> </div>		10
<p>3 映像資料を鑑賞し、絵画作品の魅力について知る。</p>	<p>DAL映像 ・堂本尚郎（ひさお）「1959-5」 ・白髪一雄「普門品雲雷鼓撃電」 ・加ト・モネ「ポール＝ドモアの洞窟」 ・中村彝「静物」 ひと作品ずつ、どんな筆跡や色のタッチが見られるか話し合いながら進める。</p>	25
<p>4 筆やパレットの使い方に気をつけて、水彩画に親しむ。 用具の準備、移動などに配慮し体験活動へ移行する。 準備、後片づけは休み時間を利用</p>	<p>筆の使い方（タッチ）について、実演しながら説明する。（野菜を彩色する） パレットの使い方や混色の仕方なども併せて確認しておく。 時間内で、1枚は完成させられるように、下絵を印刷した画用紙を用意しておく。 担任の先生と協力して、個別指導に当たる。あくまで技法体験なので、作品のできにこだわらず、技法のよさが現れるような支援に心がけたい。</p>	
		5
<p>5 本時のまとめをする。 活動の振り返りを行い、今後の表現活動に生かせるようにする。</p>	<p>活動の賞賛をすると共に、質問等があれば受ける。</p>	

活動記録

4年生3クラスで、実施。1年生の時から「出前イベント」に親しんでいることもあり、映像を見ながら作品を鑑賞する場面では、どのクラスも自分の考えを活発に発表する様子が見られた。

普段の図工の授業は、学級担任ではなく教科担任が行っているようで、新しい指導要領で示されている「共通事項」なども意識した学年間の系統性には十分配慮して教科経営がされているようである。年度の初めに、全学年「ハローミュージアム」を年間指導計画の中に組み込んでいるのも、そうした工夫の一つであろう。